



絵には様々な見方があります。自分なりの見方をワークシートによる鑑賞を通し考え・感じてみてください。

葉祥明は空気を描く画家とも言われています。
あなたはどんな空間を感じますか……

●「ジェイクの探検」という作品です。

- ・白い犬のジェイクが、海の中をイルカと一緒に探検しています。同じようにイルカと海を巡るお話の絵本があります。何という題名の絵本でしょうか。



- ※影や、口から出る気泡などを描く事で水の中を泳いでいる様子を表現しています。それ以外にも水の青の表現に濃淡を付けることで海中に奥行を感じることができます。
「空気を描く画家」と言われる葉祥明さんですが、水の空気感をも上手に描いています。

●ある絵本のワンシーンです。

- ・何という絵本でしょうか。



- ・お日さまの光の中で、ひなたぼっこをしています。
「ほっこり ほっこり」と。
あたたかくなりながら、何を話していると思いますか。

- ・この絵本の他のシーンで、公園で遊んだり、ピクニックに行くシーンがあります。ひかりに包まれて、元気いっぱい描かれています。あたりまえのようにある「ひかり」が元気の素、命に源であることを伝えています。あたりまえにあることに感謝を伝える作品です

●絵本「海からの風」のワンシーンです。



・ 浜辺に座る少女が描かれています。

水平線がぼやけた広い海は、優しく包んでくれる様な印象を受けます。

描かれている少女は、海を見ながら何を考えていると思いますか。

・ 絵に添えられた言葉です。

「寄せては返す波の音に 耳を傾けてごらん ざざあ ざざあ (中略)

ほらまた新しい波がやってきた 君の人生にも また新しい一日が…」

作品をみながら言葉を読むと、実際に波の音が聞こえてくるようです。

浜辺に座っているのが自分の様な錯覚にもなります。

空と海を広くとり、モチーフ (少女) をポツンと描く事で、絵の中に

入り込みやすい空間を作っています。ゆっくりと鑑賞しましょう。

※絵本「海からの風」は2011年の夏に出版されました。その年の3月、東日本大震災がありました。多くの命が津波により失われた後に、海を題材にしたこの作品を発表する事を悩んだといます。「しかし、今だからこそ、出さなくてはいけない」そんな思いを胸に制作を行いました。

古来から私たちの生活に恵みを与えてくれた“海”。辛いこと悲しいこと、人生で得たもの失ったもの……あの時の、そして今の思いを、海はただ黙って聞き取ってくれる。葉祥明の作品を通して、“人生への恵み” “生きる力” を海から受け取ってください。

作品の世界に入って絵を見ると、作品を深く感じる事ができるよ！